

諸家系譜

位

山

太政官文庫			
和書門		三三六四九	
類	號	冊	架
		二二五	一八

内閣文庫			
和書		三三六四九	
類	號	冊	架
		二二五	一八

内閣文庫			
番 號	和	32649	
冊 數	225 (179)		
函 號	156	23	

万八千六百三十九

共二百廿五

共八十七



未三三
松平三三

先組書

花成
六六八
松平三三

七
満
松平三三
要

甲府
松平三三
山田
村山自
伯

村山

高望之七世孫棣後漢帝愷元季江澤公
在希爾於白水或曰小棣後漢順帝愷元八
代後亂諸國所之或曰小棣後漢順帝愷元
三年辛卯年為帝愷元八

家之教

魯甲子圖成

習紋

九ノ内ニ孫九ノ内ニ著

希牧

龜甲片砂子

積慶永弘長男

細名小羊欣

伝説

信庸

母 弟 女

妻
人

福永市近女

[illegible]

華陽志

号秋暖家书

元德

白

媽 福 壽 氏 女

江

元禄四年六月九日
常盤屋主人 久松勘右衛門

以年八月九日長山縣知事
之派七十年二月廿八日
用山縣知事長山縣知事

同平一二月十九日
 同平一二月十九日
 同平一二月十九日
 同平一二月十九日

女夫

母家女

女夫

母家女

果

母家女

元休

母家女

母家女

女

同平一二月十九日
 同平一二月十九日
 同平一二月十九日
 同平一二月十九日

久妻

母家女

元周

母家女

元周

母家女

同平一二月十九日
 同平一二月十九日
 同平一二月十九日

妻 夏目氏 奥州大田郡大田町女

享保二年三月廿七日 奥州大田郡大田町 中川氏

組

享保八年三月六日 奥州大田郡大田町 中川氏

享保九年三月八日 奥州大田郡大田町 中川氏

中川氏

享保九年三月八日 奥州大田郡大田町 中川氏

享保九年三月八日 奥州大田郡大田町 中川氏

享保二年三月六日 奥州大田郡大田町 中川氏

奥州大田郡大田町 中川氏

奥州大田郡大田町 中川氏

女

奥州大田郡大田町 中川氏

茂元

奥州大田郡大田町 中川氏

奥州大田郡大田町 中川氏

奥州大田郡大田町 中川氏

奥州大田郡大田町 中川氏

奥州大田郡大田町 中川氏

女

奥州大田郡大田町 中川氏

佐家

奥州大田郡大田町 中川氏

奥州大田郡大田町 中川氏

奥州大田郡大田町 中川氏

奥州大田郡大田町 中川氏

奥州大田郡大田町 中川氏

某

青林上仕十四日服
寛政十三年二月三日為信守之始
以名之

女

初甲所生也 出所生至信守之始
后甲所生也 乃為信守之始

女

甲所生也 乃為信守之始
母上内

某

母上内
母上女

女

西暦中興 平島信守之始
母上内

信雄

東六所 信守
母上女

中興八年六月六日北十七

其甲丹信守之始 乃為信守之始

女

其甲丹信守之始
母上女

女

母上内

女

母上内

女

母上内

信

其甲丹信守之始
後信守

書上目

寅 日所書 湯川忠雄所抄本

室 毎 年 女

書 書 又 自 和 筆 女

宣 和 十 三 年 九 月 乙 未 後 年 書 子

右 通 此 卷 所 上

高 武 原 氏 中 武 隆 子

宣 和 十 三 年 乙 未 所
所 抄 本
甲 府 府 司 進 上 本

文 化 元 甲 子 年 七 月

村 山 自 伯
村 山 自 伯

申 乙 月 八 日

此 卷 所 上 本

高 武 原 氏

宣 和 十 三 年 乙 未 所
所 抄 本

系 譜

毛 改
後 新

此 部 本
村 山 自 伯

何處不有明心者

村山氏

先祖黃永明長村山長物負茂繁冊長溪
居伯仕右長村山和村山如友小字兄弟二人
三弟劉奇仕居仕弟

郭三敏

九三回書下三文字

習段

九之四橫一文字引通云

九ノ内苟も素下ニ一文字

希級

九ノ月廿二ノ日

村山長師

号一德堂

貞茂

母書

慶長五年伏見町病歿。葬建仁寺。後入左一

自序

村山平虎厨

苦海

突之爲人 海軍之師 勇後二男

書

廣中、予平書文、下以伏乞、賜教、仕如、予
疾、予負、以、月、書、中、化、之、方、而、如、竹、如、云

貞立

村山景仰

負佳

村山富太郎

負音

村山養翁

貞明 村山大師

母

村山氏

貞復

村山雪齋

村山玄玄

姐上日

寶文堂 壬午十月廿八日 文付 金物 庄 氏 書

自序

母 休男氏女

書 師見醫師 田原一周女

之陽中是年七月終日

東隱人子年二月九日庚戌

宣保七年十一月

龍州陸稼書向東歸山述伊用

同治十一年

此明弘治乙未侍主回籍中書

宣統十八年一月廿五日入

宣平八月表火乙亥

宣統元年五月五日

宣統元年

宣統三年八月

昭和三年一月九日

萬里
中在內性善不悅居士

休養を怠るな

廿
谷川あき子 慶幸子

果
八十支

負謙

女夫

天保三年七月廿八日
天保八年八月一日
天保九年三月
天保十年三月
天保十一年三月
天保十二年三月
天保十三年三月
天保十四年三月
天保十五年三月
天保十六年三月
天保十七年三月
天保十八年三月
天保十九年三月
天保二十年三月
天保二十一年三月
天保二十二年三月
天保二十三年三月
天保二十四年三月
天保二十五年三月
天保二十六年三月
天保二十七年三月
天保二十八年三月
天保二十九年三月
天保三十年三月
天保三十一年三月
天保三十二年三月
天保三十三年三月
天保三十四年三月
天保三十五年三月
天保三十六年三月
天保三十七年三月
天保三十八年三月
天保三十九年三月
天保四十年三月
天保四十一年三月
天保四十二年三月
天保四十三年三月
天保四十四年三月
天保四十五年三月
天保四十六年三月
天保四十七年三月
天保四十八年三月
天保四十九年三月
天保五十年三月
天保五十一年三月
天保五十二年三月
天保五十三年三月
天保五十四年三月
天保五十五年三月
天保五十六年三月
天保五十七年三月
天保五十八年三月
天保五十九年三月
天保六十年三月
天保六十一年三月
天保六十二年三月
天保六十三年三月
天保六十四年三月
天保六十五年三月
天保六十六年三月
天保六十七年三月
天保六十八年三月
天保六十九年三月
天保七十年三月
天保七十一年三月
天保七十二年三月
天保七十三年三月
天保七十四年三月
天保七十五年三月
天保七十六年三月
天保七十七年三月
天保七十八年三月
天保七十九年三月
天保八十年三月
天保八十一年三月
天保八十二年三月
天保八十三年三月
天保八十四年三月
天保八十五年三月
天保八十六年三月
天保八十七年三月
天保八十八年三月
天保八十九年三月
天保九十年三月
天保九十一年三月
天保九十二年三月
天保九十三年三月
天保九十四年三月
天保九十五年三月
天保九十六年三月
天保九十七年三月
天保九十八年三月
天保九十九年三月
天保一百年三月

某 姓

叔村

某 姓

叔上

某 姓

叔上

某 姓

叔上

女 夫

叔上

女

叔上

某 姓

叔上

高二十表二人

天保三年三月廿八日

滋養并修

光武天皇

明治天皇

大正天皇

昭和天皇

皇太子

系譜

光武

張氏

六百八十八年

□ ○

四書外傳

村山春堂

村山氏

光緒二十三年八月七日
光緒二十三年八月七日

希之紋
廣之文
永之紋
口之

信元十郎

恆有

接續刊布

信弟

1925

元弘

飛

又宣夜書云：『有天之物，其往而西，終而復東，遂之彗星，其後而西，復而東，中其間者，有恆氣。』氣，猶五情，往而復來，是氣也。是信往而復來也。——此亦云：『復而東，復而西。』又云：『有天之物，其往而西，終而復東，遂之彗星，其後而西，復而東，中其間者，有恆氣。』氣，猶五情，往而復來，是氣也。是信往而復來也。——此亦云：『復而東，復而西。』

信庸

村山修三

從是而歸村山之東坡中其之松溪一水
唐流一水之山

東武

村山八さう

元徳

所村記なり

原若年休

大正四年四月廿六日

元徳二年一月廿九日

元徳

村山自伯

元徳二年四月廿九日

元徳二年四月廿九日

元徳二年四月廿九日

元徳二年四月廿九日

元徳二年四月廿九日

元徳二年四月廿九日

改定

所村記なり

元徳

村山自伯

元徳二年四月廿九日

元徳二年四月廿九日

元徳二年四月廿九日

元徳二年四月廿九日

元徳二年四月廿九日

元徳二年四月廿九日

元徳二年四月廿九日

元徳二年四月廿九日

元徳二年四月廿九日

元徳二年四月廿九日

元徳二年四月廿九日

元徳二年四月廿九日

元徳二年四月廿九日

古女

古女 八 五 年 六月 廿 日 午 時 香 川 郡 香 川 町 在 住 者 加 女
少 女 年 十 三 歳 神 田 郡 加 女 二 人 年 十 七 歳 村 山 郡 加 女
加 女 年 十 五 歳 加 女 年 十 三 歳 加 女 年 十 一 歳 加 女 年 九 歳
加 女 年 七 歳 加 女 年 五 歳 加 女 年 三 歳 加 女 年 一 歳
加 女 年 八 歳 年 一 歳 年 一 歳 年 一 歳 年 一 歳 年 一 歳
加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳
加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

元珍

加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

末

加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

加 女 年 十 三 歳 年 十 五 歳 年 十 七 歳 年 十 九 歳 年 一 歳

有成

村山辰次郎 知事

母 市川氏

寛政二年一月九日

一 往來しるがた

云々七年に日中、市川辰次郎と名乗る

日中辰次郎

改定辰次郎人三日月辰次郎

寛政六年一月九日

一 往來しるがた

寛政七年一月九日

辰次郎辰次郎人

某

自書

母 市川氏

女

市川辰次郎

寛政六年一月九日

某

辰次郎 初令

書面上日

寛政七年一月九日

寛政七年一月九日

寛政七年一月九日

寛政七年一月九日

寛政七年一月九日

寛政七年一月九日

元章

書面上日

寛政七年一月九日

寛政七年一月九日

寛政七年一月九日

幕府
弓矢調御村
安政壬午

之枯
卯元氣

信古

曹叔山氏

實多子出之這法假不雇三男

安海松年氏

先妻 張氏 王德安 女

後書 卷之六 汴水書局之信條

室ノ下ニテアリテ生ズル

以物入事。上曰。子欲入吾山者。先

五郎七五奉 九月十九日 四書房 終

室山古志事一古志事記

華月 月 帝臨院 觀衆 了 卷之五

女
夫

田子成女

女
久

如左

某
所
失

奴
上白

时保 姜重

李氏泣血

實美
查得長慶瑞府

室母 寫出之字 增信女

書
黃天
之松
何古
甘

女

母上日

李通伯藏

高二十人扶持 中一落戶 後所引智德寺上京地

宣統三年己未十二月

村心可寄童

未十二月廿八日
宣和殿至破寺口

後在廣州
八百五十九卷
瑞田古書

系

心
師

小善居

七言古詩

陳善翁

清和源氏

村山氏

足利村山七郎頼通末孫

藤原氏

六郎内子三子

藤原氏

日守

藤原氏

日守

藤原氏

三子

頼通

村山大膳

母不知

妻北條通治士郎正邦女

北條成通正房慶下小田原氏孫氏村山

那依正房實勢正氏正房正氏正氏

院正房正氏正氏正氏正氏

室尚

新婦

北條成通正房慶下小田原氏孫氏村山

妻正士小田原氏正氏正氏

漢書

角

素
雲
之
在
空
亦
不
小
焉

重慶之臨水西在甲子月九日武勝村山三處

古德公所代之和也幸
萬年月々萬民如衆百

不復信之者無以爲量也

大猷公問之代宿事以勤

寬文十一年
壬午九月

歲有公門代涉後門免書莊人子移處終通

少者入以年之五而事月。雖如之。

吳中書院在市中德仁入

光緒二十五年歲次己酉

天和元年三月廿五日
上野縣北條

張氏誦堂

江石克岳漢大奎圖

重義

白

抄本卷之三

事 〇〇〇〇 宿老云云云云

宣義院院長に手紙を付日五部出向此

度有之即代定入丁二年日五部出向此

宣義院院長に手紙を付日五部出向此

宣義院院長に手紙を付日五部出向此

宣義院院長に手紙を付日五部出向此

宣義院院長に手紙を付日五部出向此

宣義院院長に手紙を付日五部出向此

宣義院院長に手紙を付日五部出向此

宣義院院長に手紙を付日五部出向此

宣義院院長に手紙を付日五部出向此

宣義院院長に手紙を付日五部出向此

宣義院院長に手紙を付日五部出向此

女子 宣義院院長に手紙を付日五部出向此

宣義院院長に手紙を付日五部出向此

心能

宣義院院長に手紙を付日五部出向此

宣義院院長に手紙を付日五部出向此

宣義院院長に手紙を付日五部出向此

宣義院院長に手紙を付日五部出向此

宣義院院長に手紙を付日五部出向此

宣義院院長に手紙を付日五部出向此

有章公詩
西樵之志
六月八日
山人何若

五子原書入五子原書

嘉慶九年正月二十二日

細必

元文三十八年十二月廿五日

是より古の儀候と申す程に古に候と申す

郭夜生

同治五年二月廿九日

但求其作自來水也

少壯寬延二年三月在六藏八多病死

寺前法本推陳院當基二法圖詳

族員之希望

母 聖之役 宿名武惠 孫女

龍橋田氏及書信贈與小書及書信

壬午年八月

女子
此詩見於
莊子內篇
養生訓

母上白

女子 甲子部書 浦上推子 乙未部書

母省

中人之常情

海上月

国立公文書館
National Archives of Japan

村山師範 早世

如子

村山氏 早世

如子

宣文侯伯子孫其輔政者
宣德元年甲午正統二年丙辰
宣德七年乙未二月廿五日

正親

如子

女子

如子

宣文侯伯子孫其輔政者
宣德七年乙未二月廿五日
宣德七年乙未二月廿五日
宣德七年乙未二月廿五日

女子 早世

母村山角左衛門

正堅

如子

母 元中元年八月未 以持世より名を継ぎ
末 吉庵

正徳元年八月未

有徳公 御代 寛延元年正月未 以持世より
御代

日二二二年二月未 大角より 以持世より
日年四月未 大角より 以持世より
二十二年四月未 大角より 以持世より
以持世より 以持世より
日年七月未 大角より 以持世より

日二二二年二月未 大角より 以持世より
日年四月未 大角より 以持世より
二十二年四月未 大角より 以持世より
以持世より 以持世より
日年七月未 大角より 以持世より

為仲

以持世

以持世

以持世

以持世

以持世

有佳之御代為仲成

寛政七年十月より八月迄の侍所
為事の次第

同年三月より四月迄武家御達より
御所西屋御成敗の御成敗の御成敗
御成敗の御成敗

同九月より十月迄の御成敗の御成敗
御成敗の御成敗の御成敗の御成敗
御成敗の御成敗の御成敗の御成敗
御成敗の御成敗の御成敗の御成敗
御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

安永二年四月より五月迄の御成敗の御成敗

御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

御成敗

同八月より九月迄

孝若溪林 嘉永御成敗

嘉永元年十月より十一月迄の御成敗の御成敗
御成敗の御成敗の御成敗の御成敗
御成敗の御成敗の御成敗の御成敗
御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

同八月より九月迄の御成敗の御成敗
御成敗の御成敗の御成敗の御成敗
御成敗の御成敗の御成敗の御成敗
御成敗の御成敗の御成敗の御成敗
御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

日王 正康平六年六月二十七日
幸春日山院通云香山

心英

母

母 入生る時春女

三 信

秋成富丁三十五年二月廿二日
又村山院在春日山院通云香山

日王 正康平六年二月十九日
幸春日山院通云香山

廣明

廣明

如上月

廣明成親九年九月廿二日
石院在春日山院通云香山
世美達等

安永八己亥年三月廿五日
 元禄九年四月廿五日
 一、元禄九年四月廿五日
 元禄九年四月廿五日
 元禄九年四月廿五日

正壽

八十八

母 孝行 三郎 信門 廿

元禄九年四月廿五日

西福

八十

母上日

元禄九年四月廿五日

右通

百五

元禄九年四月廿五日

元禄九年四月廿五日

村山 五

申二月廿八日
明勅之奉承

修和院
永三百年番地田之

系譜

む
室
監

田
村田

源氏

村田氏

家之政

九三箱

幕之政

右口所

替之政

布之資

清和天皇七代後胤

鎮守府將軍義家四男

式部大輔

義國

新田西家之祖

義國二男

義康 足利法皇判官

實

義國三男 義康之弟相續

義康 足利上條父

義純

足利太郎後畠山遠江守
光正位下

義純三男

足利藏人右衛門

時兼

後名取遠江守

時兼二男

河名松七郎

頼兼

後名村田

頼綱

村田又右衛門

村田又右衛門

貞和四年藤井合戦

村田右衛門

宣政述二百二十條第一回

備前國郷士三十五名在右書箱内附曆

年中口二大失火而焼失仕

宣政

村田右衛門

宣昌

村田右衛門

宣政兄孫男

母 名 宣昌

書

宣昌右衛門三到所和格下也

神皇正統記 卷之八 宣昌右衛門

宣昌右衛門三到所和格下也

宣昌右衛門三到所和格下也

宣昌右衛門三到所和格下也

方二部より波力助四知未信儀或人信揚
 子より重四知事
 寛永七年十一月五日
 法名完元 普中達入寺と奉り

重苦

村田重苦

母 名重苦 名古

妻 頼口重苦 孫孫娘

大猷公御代寛永七年十一月五日知美子物
 形或子より重四知事より重四知事

寛永七年十一月五日知美子物

重則

兄重苦 養子

母 名古

重則

村田重則

養母 後名重 頼口重苦 孫孫娘

実母 名古

妻 重苦 孫孫娘

大猷公傳代實永平二年九月乙未卒又云卒於
 梁城多事也梁城事乃即今之役五節之
 一以爲月之而和也子之曰雅古年朔節
 負事之當年七月九日而卒之而北信
 張石帝專治進師心之也

章定

村田茂信

卷

母
前
因

臺北

母之

墮所久二

清楊浣樵少府書稿

母男

延香閣奉一日之安

文正公集卷之八

明倫彙編

女子

後石井市川路五丁、京直書

母音

薰膳

付田義隆

養父村田家之書則

養正殿書景

美父以名品市川渡船より乗通

室毎 村田南守の室則娘

妻 以名品 百く二重より安親娘

常憲陸奥守代 天和三年正月廿二日 吉又

前より改式より重宝出御事方御成

陸奥守代 成相御成事方

文照公 御代 室南七年十月十二日 以名品方

以名品方 作方より御成事方御成

切事方御成事方人持持言より御成事方

後武平より御成

室南九年十二月二日 以名品方御成

法名宗賢 在日方

室義

村田南守 早世

母 百く二重より安親娘

女子

早世

母 在日方

女子

早世

母 在日方

昌則

村田南守

母 在日

めくれず

書 尾張守 赤松直正 常陸守 赤松直正

次男 利和 孫 直正

有徳公 御代 享徳二年二月四日 大内親政

より 金主 山形 幸 山形 幸

山形 幸 山形 幸 山形 幸

懐信公 御代 享徳二年七月廿日 大内親政

より 金主 山形 幸 山形 幸

山形 幸

山形 幸 山形 幸 山形 幸

山形 幸 山形 幸 山形 幸

山形 幸 山形 幸 山形 幸

山形 幸 山形 幸 山形 幸

山形 幸 山形 幸 山形 幸

山形 幸 山形 幸 山形 幸

山形 幸 山形 幸 山形 幸

山形 幸

山形 幸 山形 幸 山形 幸

山形 幸

惟貞 村田卯七

寛延元年九月九日 大内親政

山形 幸 山形 幸 山形 幸

山形 幸 山形 幸 山形 幸

山形 幸 山形 幸 山形 幸

智 宣

甘肅通志

夢村萬葉集

去秋仰蒙惠書

實元 坤元 治道 樂度 二曾

宣和
庚子
歲次
己未
年

書
書人呂則振

懷儒公卿大夫士庶民

[illegible]

順天縣志

宣統八年三月廿六日 於通州 曾文正公

行有素 松年有通經史 信後之服也 此矣

明細丹波寺上院一坐部院主

昭和九年九月病歿。法名獨坐石可。

女子

古智生書

母
前白

女子

如左

清水殿より青葉卿忠告書
其の意を奉りて

昌教 殊希

徳久昌則嫡孫重祖

母 昌則殿

村田氏

昌教

実母村田氏重希 旨意無願

母 昌則殿

事 西元中ノ人

昌教より昌則殿に書したる書状に於て

昌教は昌則殿の旨意を無願とす

後明公卿代祖天村田重希より昌教に書したる書状に於て

昌教は昌則殿の旨意を無願とす

昌教は昌則殿の旨意を無願とす

昌教は昌則殿の旨意を無願とす

昌教は昌則殿の旨意を無願とす

昌教は昌則殿の旨意を無願とす

昌教は昌則殿の旨意を無願とす

昌教は昌則殿の旨意を無願とす

宣統元年九月

宣統元年九月

宣統元年九月

宣統元年九月

宣統元年九月

宣統元年九月

宣統元年九月

宣統元年九月

宣統元年九月

宣統元年九月

宣統元年九月

宣統元年九月

宣統元年九月

宣統元年九月

宣統元年九月

宣統元年九月

宣統元年九月

宣統元年九月

宣統元年九月

宣統元年九月

以之三年九月十九日公卿在東山向主
合食用五部其有能應其者亦不難
并其部之捕及之能後法川也
以三年十月之末備主合食用之件
松平越中へ致す所後之能主合食用
由備へ致す

以三年三月七日江戸川御用川一渡
四部在岸之件及之松平御中へ
致す所後之能主合食用中へ

以七年六月八日江戸川御用川一渡

江戸川御用川一渡
御用川

以八年九月五日江戸川御用川一渡
御用川

以九年三月五日江戸川御用川一渡
御用川

以十年四月五日江戸川御用川一渡
御用川

以十一年五月五日江戸川御用川一渡
御用川

以十二年六月五日江戸川御用川一渡
御用川

推判者ありきなりしに別居後及てしゆき
 以て伊豆より戻りて
 ひとふし年よりしりて推判者ありき
 我れも村より戻りて推判者ありき
 推判者ありき

昌汎

村田新三郎

母 嘉高より入るる所

東

母 右より

右 通の所なり

ふとむる所

しりて戻りて

月

北村より入るる所

清原より入るる所
 北村より入るる所
 北村より入るる所

寛文十一年十二月

村田新三郎

未と推判者

五

申に月

申に月

系體

修徳氏

ふ三首在格書〇

通

毛

富山

水島

村田

源隆

村田

名祖是利隆美別名義康代名松
翁人付来一以自七帝於系
印多柳是村田名名村田村人屋
早世有年家子小山家名村田格
名隆美一子以村名隆美一子
三代是師寺一孫り人代村田村人
引隆美一

張

希之政 九岡井文字

家

高岡希之政九岡井柳

名隆美一子以村名隆美一子

九曜星

希之政 八七桐

九二司

名隆美一子利隆美別名義康代名松

七帝於系一子以村名隆美一子

高橋

高橋 後より

書人 高橋 村田重常續言

母 高橋

妻 高橋

元禄二年壬午一月の事知生以是

但古代柳澤園村田高橋の如く教養の九代

の事より所を遺言に利義備に祖傳中

の事より因て高橋の中村高橋

高橋の事より高橋の事より高橋の事より

高橋の事より高橋の事より高橋の事より

高橋の事より高橋の事より高橋の事より

高橋の事より高橋の事より高橋の事より

高橋の事より高橋の事より高橋の事より

高橋の事より高橋の事より高橋の事より

高橋の事より高橋の事より高橋の事より

高橋の事より高橋の事より高橋の事より

神原 高橋の事より高橋の事より高橋の事より

高橋の事より高橋の事より高橋の事より

高橋の事より高橋の事より高橋の事より

高橋の事より高橋の事より高橋の事より

日三乙亥年六月廿六日辰時
門流子月壽 子後山在田

女子

母不知 事蹟不知

胎久

子月

任修德生

母不知

出生年月日不知

胎昌

子月

任修德生

出生年月日不知

子後山在田

年月日不知

胎吉

子月

任修德生

母不知

慶長丁未年八月廿六日生

出生年月日不知

積吉

子月

任修德生

胎吉

子月

任修德生

母不知

出生年月日不知

任修德生

慶長十六年三月廿一日

大猷公御代官印中二

三月廿一日

牧野仙舟より

十月七日

別紙より

作方役於

年月日

三月廿一日

中元元年

三月廿一日

貞享二年

三月廿一日

附

三月廿一日

母

三月廿一日

甲子卯辰中

三月廿一日

附

三月廿一日

母

出立月日

甲子年三月廿五日

附安

三月廿五日

後主

母

出立年月日

乙未年二月七日

向志元寺

女子

村田氏

母

女子

村田氏

母

續

續

後主

母

實父

實母

出生年月日

甲子年三月廿五日

附安

實父元寺 乙未年二月七日

日十三 庚辰年六月廿六日 壬戌歲初九日

申智院家 日清寺院主任任恩

晴友

女 弟 後中少 仍居

母 女

出坐年月日 壬戌年正月

甘子

早世

母 女

常勝

後中少

壬戌年八月

女 早世六月廿七日

書 庚辰年正月廿七日 壬戌年正月

壬戌年正月廿七日 壬戌年正月

父 壬戌年正月廿七日 壬戌年正月

壬戌年正月廿七日 壬戌年正月

壬戌年正月廿七日 壬戌年正月

壬戌年正月廿七日 壬戌年正月

文 壬戌年正月廿七日 壬戌年正月

壬戌年正月

壬戌年正月廿七日 壬戌年正月

壬戌年正月廿七日 壬戌年正月

年八月...
...

元文...
...

附昌

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

二
徑
廣
凡

光緒
步法岸院已未年

集

李師早進

如春

集

大七
子也

母之德久矣

女子

張曾志子 吳布陽堂

母在日

其子所

痛尚

卷五

此字係從「木」部

知自名在古書中

空方母

蘇母

香

美

村田玄勝

先文公也 弟年三月 未及半里 已腐

憶信公

所代表又係呂祥雲而呂氏少壯

帝室六
西曆一千九百零七年七月
楊集
見

室以和室也。能大七伏之室多而地

胎尚從自秋去月方授念情厚之
 下懷後以書文附以書信使快所
 三秋在懷去來估價之多年
 五原八年中辛丑三月九日去書
 卿自見之作有已之書信去來
 書信六甲寅年九月方之河
 上秋下 卿有反物之賜
 口人主在書信以書信年十月
 西去書信 卿有反物之賜

臨秋

白
羅少卿書

果

卷之五

旦

果

久石

12

新志

欽定四庫全書

石通四座

言可格後 中國道 上國

江府家治也
大府之上

室及至事青

東一氣
村田氏
邪

未十二月
室及至事青

系譜

法
六四拾部書 村田氏

乙 佐

書
室及至事青
村田氏

山田氏

本苗作本

信貞村田

信賢神主代作本八郎主信隆

善之役

日之月法

善之役

九地信隆

善之役

三ノ色

町医師村田右衛門昌菊

町医師村田左衛門昌菊

昌伯

知名長庵

又長庵

村田吉村氏下

養子家

實女長庵醫師 曾谷伯安氏信永氏女

事 河村林庵也

町医師村田右衛門昌菊

元禄二年三月十八日 町医師村田右衛門昌菊

信賢神主代作本八郎主信隆

善之役 日之月法 九地信隆

善之役 三ノ色

町医師村田右衛門昌菊

町医師村田左衛門昌菊

昌伯

知名長庵

又長庵

村田吉村氏下

養子家

實女長庵醫師 曾谷伯安氏信永氏女

事 河村林庵也

町医師村田右衛門昌菊

町医師村田左衛門昌菊

昌伯

知名長庵

又長庵

村田吉村氏下

養子家

不詳

寛政九年二月

瑞雲院御用之九上御書

寛政七年七月廿五日 右長官院在御書

同四年四月

瑞雲院御用之九上御書 御書在御書

寛政九年

寛政九年十月廿七日

瑞雲院御用之九上御書

瑞雲院御用之九上御書 御書在御書

昌福寺住持人村田長廣寺住持人

瑞雲院御用之九上御書 御書在御書

昌福寺住持人村田長廣寺住持人

女

昌福寺住持人村田長廣寺住持人

母 昌福寺住持人

女

昌福寺住持人

母 昌福寺住持人

昌福

昌福寺住持人

昌福寺住持人

昌福寺住持人

昌福寺住持人

昌福寺住持人

昌福寺住持人

昌福寺住持人

昌福寺住持人

昌福寺住持人

昌福寺住持人

昌福寺住持人

昌福寺住持人

女 寶月 松平田氏恒隆妻

世有
寬延元年十一月廿九日

廿
以鹿非馬之說
若吾侪安能自奉

母上曰

致和

知為害廣

告廣

村田玄廣法帖

楊白村田成女

書
吳醫師
雷允為兄診眼四條

宣統三年生來田元座銘

元文同里事 丁巳之月見 融之東之卷

重刊分形通義序

又文王年一子名曰武庚

第三十七卷 江戸の町

紀伊守 幸中

五月十一日午後、於檳榔嶼夜半時分、

家多懷而為之懷於三國也此其非於也

大坂九年九月二十一日

卷之四

以年十月七日於廣州府城內松年堂寓所

惟此爲多，故予爲之通，以爲之

行水消腫散
三石散

[illegible]

三、本年全日共入古物及手藝品

三ノノ

上列各事，乃其子孫所由立，

[illegible]

海山先生集卷之五

主事 長久保 忠清

明神宗皇帝御製

ある事... 宗元

ある事... 宗元

ある事... 宗元

ある事... 宗元

ある事... 宗元

ある事... 宗元

宗元

宗元

宗元

ある事... 宗元

宗元

宗元

宗元

ある事... 宗元

宗元

宗元

宗元

ある事... 宗元

宗元

宗元

宗元

ある事... 宗元

宗元

宗元

宗元

宗元

宗元

ある事... 宗元

宗元

ある事... 宗元

宗元

ある事... 宗元

宗元

宗元

ある事... 宗元

母 弟 女
母 弟 女
母 弟 女
母 弟 女

母 弟 女
母 弟 女
母 弟 女
母 弟 女

妻 丁 醫師 友田政子
完 延 三 年 一 月 廿 七 日 卒
云 終 元 身 年 八 月 廿 七 日 卒
云 終 二 身 年 一 月 廿 七 日 卒
云 終 三 身 年 一 月 廿 七 日 卒

昌 英 村田杏庵

母 弟 女

昌 強 村田杏蘭

母 弟 女

昌 弘 村田杏園

母 弟 女

昌 行 村田杏師

母 弟 女

左 通 山 氏 女

右 通 山 氏 女

之 通 山 氏 女

宣 政 三 年

村田長庵 和

申

正月廿八日

花便書

む

花便書

修和元年

八百五十六番。花便書

□

西九月廿八日

村松屋

源氏

相松

信和天皇廿六代、後醍醐天皇御人
小幡久より、藏為、武田、建達、所、属
源氏、彦彦、山、今、長、足、所、人
信和天皇廿六代、後醍醐天皇御人
小幡久より、藏為、武田、建達、所、属
源氏、彦彦、山、今、長、足、所、人

藤之政
九ノ内、地、下、子
希之政
同

郭之政
同
希之政
南地、政

小幡久より、藏為、武田、建達、所、属

藏之政
同

母、信、政、人
信和天皇廿六代、後醍醐天皇御人

家、信、政、人
山、中、小、幡、久、所、人

年月日、五、知、生、信、政

信和天皇廿六代、後醍醐天皇御人

信和天皇

明子 御算

寛政元年甲申年三月日

文照云 石丸上と存 入寺此後此寺方五郎

正徳二年六月六日病歿此年

六郎六郎子存 寺 吟廊院

改男

村松左衛門藏主

母 右目

二男

村松左衛門藏元

母 右目

右目此後此寺方五郎二年二月病歿

女子

御算此寺方五郎

此後此寺方五郎

母 右目

藏直

御算

母 村松左衛門藏主

妻

少人近

此後此寺方五郎

妻

此寺方五郎

此後此寺方五郎

正徳二年六月六日病歿

常憲云 御算此寺方五郎

文照云 西丸上と存

入寺此後此寺方五郎

年月日 嘉和四年八月八日 北下
作 嘉和四年八月八日 北下
作 嘉和四年八月八日 北下
作 嘉和四年八月八日 北下
作 嘉和四年八月八日 北下
作 嘉和四年八月八日 北下
作 嘉和四年八月八日 北下
作 嘉和四年八月八日 北下
作 嘉和四年八月八日 北下
作 嘉和四年八月八日 北下

藏板

母古日

村松金左衛門

嘉和四年八月八日 北下

嘉和四年八月八日 北下

嘉和四年八月八日 北下

嘉和四年八月八日 北下

嘉和四年八月八日 北下

嘉和四年八月八日 北下

山本九郎松平の所より此を仰る

同六月己丑年十月十九日

月主彦孫山本 仰る

同徳二癸巳年二月廿四日

蔵

村松氏八郎

母在日

同徳二癸巳年二月

月主彦孫山本村松蔵君の所

弟

牛山貞之助

母在日

同徳元申年六月

牛山彦之助兼佐吉の所

兄

山本乙之助

母在日

同徳二乙未年八月

山本彦之助の所

山本

山本辰七郎

母在日

同徳二乙未年二月

山本彦之助の所

藏勝

村松八重子

母 七月

西往二壬辰年七月往訪同修寺東土村松
八重子藏元家子也

藏廣

母 八月

母 八月
往母 八月往
書 天壽院御入
元禄中乙辰年
往母 八月往
往母 八月往
往母 八月往

有往公御代 壬辰年 壬辰年 壬辰年

御自見 壬辰年

同年八月乙辰年 往母 八月往
同年八月乙辰年 往母 八月往
同年八月乙辰年 往母 八月往
同年八月乙辰年 往母 八月往

實地二己辰年二月往 西往同修寺

廣明公御馬

御自見

御自見

往母 八月往 往母 八月往

同年三月往 西往同修寺

同平今高唐九三年三月也年一移

寛延三庚午年三月也馬

四甲子年四月也馬

同平今高唐九三年也年一移

高唐元平年四月也馬

同平今高唐九三年也年一移

同平今高唐九三年也年一移

同平今高唐九三年也年一移

同平今高唐九三年也年一移

同平今高唐九三年也年一移

同平今高唐九三年也年一移

同平今高唐九三年也年一移

同平今高唐九三年也年一移

同平今高唐九三年也年一移

同平今高唐九三年也年一移

同平今高唐九三年也年一移

同平今高唐九三年也年一移

同平今高唐九三年也年一移

同平今高唐九三年也年一移

同平今高唐九三年也年一移

同平今高唐九三年也年一移

藏法

切取者所

母右日

兄藏法所今とある

成尹

只主信

女

信持主とある

喜

信子

御丹堂より元女

富属千左衛門と月八日とある

信持主 御丹堂より元女

書

信持主

山内より元女

喜

信持主

松平信持主

元文三年六月十日とある

信信公

御代 富属八左衛門

御丹堂より元女

同年三月十日とある

松平七郎信持主

同年三月十日とある

同年三月十日とある

同十年三月十日

御丹堂より元女

同年三月十日とある

信持主

同年十二月廿五日
 昭和元年三月三日
 昭和二年十月六日
 昭和三年正月三日
 昭和四年正月三日
 昭和五年正月三日
 昭和六年正月三日
 昭和七年正月三日
 昭和八年正月三日
 昭和九年正月三日
 昭和十年正月三日
 昭和十一年正月三日
 昭和十二年正月三日
 昭和十三年正月三日
 昭和十四年正月三日
 昭和十五年正月三日
 昭和十六年正月三日
 昭和十七年正月三日
 昭和十八年正月三日
 昭和十九年正月三日
 昭和二十年正月三日
 昭和二十一年正月三日
 昭和二十二年正月三日
 昭和二十三年正月三日
 昭和二十四年正月三日
 昭和二十五年正月三日
 昭和二十六年正月三日
 昭和二十七年正月三日
 昭和二十八年正月三日
 昭和二十九年正月三日
 昭和三十年正月三日
 昭和三十一年正月三日
 昭和三十二年正月三日
 昭和三十三年正月三日
 昭和三十四年正月三日
 昭和三十五年正月三日
 昭和三十六年正月三日
 昭和三十七年正月三日
 昭和三十八年正月三日
 昭和三十九年正月三日
 昭和四十年正月三日
 昭和四十一年正月三日
 昭和四十二年正月三日
 昭和四十三年正月三日
 昭和四十四年正月三日
 昭和四十五年正月三日
 昭和四十六年正月三日
 昭和四十七年正月三日
 昭和四十八年正月三日
 昭和四十九年正月三日
 昭和五十年正月三日
 昭和五十一年正月三日
 昭和五十二年正月三日
 昭和五十三年正月三日
 昭和五十四年正月三日
 昭和五十五年正月三日
 昭和五十六年正月三日
 昭和五十七年正月三日
 昭和五十八年正月三日
 昭和五十九年正月三日
 昭和六十年正月三日
 昭和六十一年正月三日
 昭和六十二年正月三日
 昭和六十三年正月三日
 昭和六十四年正月三日
 昭和六十五年正月三日
 昭和六十六年正月三日
 昭和六十七年正月三日
 昭和六十八年正月三日
 昭和六十九年正月三日
 昭和七十年正月三日
 昭和七十一年正月三日
 昭和七十二年正月三日
 昭和七十三年正月三日
 昭和七十四年正月三日
 昭和七十五年正月三日
 昭和七十六年正月三日
 昭和七十七年正月三日
 昭和七十八年正月三日
 昭和七十九年正月三日
 昭和八十年正月三日
 昭和八十一年正月三日
 昭和八十二年正月三日
 昭和八十三年正月三日
 昭和八十四年正月三日
 昭和八十五年正月三日
 昭和八十六年正月三日
 昭和八十七年正月三日
 昭和八十八年正月三日
 昭和八十九年正月三日
 昭和九十年正月三日
 昭和九十一年正月三日
 昭和九十二年正月三日
 昭和九十三年正月三日
 昭和九十四年正月三日
 昭和九十五年正月三日
 昭和九十六年正月三日
 昭和九十七年正月三日
 昭和九十八年正月三日
 昭和九十九年正月三日
 昭和第一百年正月三日

考卷後在 衆所 日年 月 日

中平九節 作有 松平 國治 教 傳 廣 小

王 昭 元 年 月 日 在 西 西 西 西

作 有 田 田 田 田 田 田 田 田

日 年 三 月 於 西 九 九 九 九 九 九 九

日 年 六 月 於 五 年 三 月 進 年 楊

日 年 三 年 二 月 終

大 綱 意 義 馬 法 義 義

日 年 三 月 作 有 田 田 田 田 田 田 田 田

日 六 西 年 年 九 月

渡 明 公 義 所 日 年 月 日 日 年 三 月

馬 中 平 九 節 作 有 松 平 國 治 教 傳 廣 小

楊 王 昭 元 年 月 日 在 西 西 西 西

日 七 五 年 三 月 七 節 向 松 平 文 九 節

通 作 有 田 田 田 田 田 田 田 田

日 年 三 月 於 西 九 九 九 九 九 九 九

日 年 六 月 於 五 年 三 月 進 年 楊

日 年 三 年 二 月 終

日 年 三 月 作 有 田 田 田 田 田 田 田 田

日 六 西 年 年 九 月

日八甲子正月八日

市々和五洲時辰或時辰一子未年正月八日

年一移

寛政九年正月八日酉九時辰

以信神此也通云云

戸田常也家移或

移移云云

戸田福信云云

日年三月移西九時辰

移云云

威彰

村松氏三郎

母 弘福寺云云

兄 藏尹云云

女

母 世能

高橋氏常時

母 右月

女

母 西月

大田氏常時

母 右月

大田重忠公之傳後

同十一年三月四日

上院之長子向由部注進後賜一

御免也重忠公限之於賜

同年八月末三日也幸一御免也

同十二年一月一日也幸一御免也

向由部注進後賜一

御免也重忠公限之於賜

藏政

中書作進

秋中書作進

母 山重忠公之傳後

大田重忠公九月十日秋山八重忠公

大田重忠公

延化

川部政政

中書作進

母 大田重忠公限之於賜

大田重忠公八月十日秋山八重忠公

大田重忠公

長壽

大田重忠公

大田重忠公

母 大田重忠公

大田重忠公八月十日秋山八重忠公

大田重忠公

女 新田 新田七郎右衛門 女
 女 山崎 山崎三郎右衛門 女
 女 西尾 西尾四郎右衛門 女
 女 松本 松本五郎右衛門 女
 女 中道 中道六郎右衛門 女

蔵持 蔵持 村松 村松

蔵持 蔵持 蔵持 蔵持

蔵持 蔵持 蔵持 蔵持

蔵持 蔵持 蔵持 蔵持

蔵持 蔵持 蔵持 蔵持

寛政三庚申年一月

寛政馬帳

村松口

中二口

田山七郎

後和原氏

八百八拾番 田山七郎

口口

系譜

む 海

田山七郎

後和原氏

村松口

修徳源氏

村松氏

平國信濃

善徳源氏

九二自松丁子

新徳源氏

右内侍

源氏

右内侍

村松氏信濃源氏二男

蔵教

母 源氏善徳源氏信濃源氏 村松氏信濃源氏善徳源氏

善徳源氏

元禄二年三月三日經信濃源氏信濃源氏善徳源氏
父源氏信濃源氏信濃源氏馬善徳源氏信濃源氏信濃源氏
弟源氏信濃源氏信濃源氏信濃源氏信濃源氏信濃源氏
元禄二年三月三日經信濃源氏信濃源氏信濃源氏
善徳源氏信濃源氏信濃源氏信濃源氏信濃源氏信濃源氏
西元一千七百一十一年三月三日經信濃源氏信濃源氏

月見源氏信濃源氏

西元一千七百一十一年三月三日經信濃源氏信濃源氏
善徳源氏信濃源氏信濃源氏信濃源氏信濃源氏信濃源氏

蔵定

母 源氏

善徳源氏信濃源氏信濃源氏信濃源氏信濃源氏信濃源氏
西元一千七百一十一年三月三日經信濃源氏信濃源氏
日見源氏信濃源氏信濃源氏信濃源氏信濃源氏信濃源氏
善徳源氏信濃源氏信濃源氏信濃源氏信濃源氏信濃源氏

蔵心

西元一千七百一十一年三月三日經信濃源氏信濃源氏

母 山内氏女

喜 中ノ人佐助卿子市郎 陸奥に在りて是妻女
を又二三年六月に自入内を成りて
延宝元年九月七日に家に入内せり
其時中ノ人十二月に病に死す
其時中ノ人十二月に病に死す
其時中ノ人十二月に病に死す

某

母 上白
其時中ノ人十二月に病に死す

某

母 上白
其時中ノ人十二月に病に死す

威英

母 上白
其時中ノ人十二月に病に死す

大正九年三月五日
大正九年三月五日
大正九年三月五日

心昌

母 上白
其時中ノ人十二月に病に死す

喜 中ノ人佐助卿子市郎 陸奥に在りて是妻女

延宝元年九月七日に家に入内せり
其時中ノ人十二月に病に死す
其時中ノ人十二月に病に死す
其時中ノ人十二月に病に死す

正盈

女上日

村松全平一歳庸老

正母

女上日

村松全平一歳庸老

女上日

正幹

女上日

女上日

正之

女上日

村松全平一歳庸老

女

女上日

村松全平一歳庸老

村松全平一歳庸老

村松全平一歳庸老

村松全平一歳庸老

村松全平一歳庸老

未三月六日

村松全平一歳庸老

村松全平一歳庸老

村松全平一歳庸老

□

系譜

正

正

正

村松全平一歳庸老

村松全平一歳庸老

是

友常

左三席

女子

右三席
花田芳久家

秋成とよきとふりきりきり
友常と女徳ありきりきり
おきりきりきりきり

三月

村松氏

友常氏

中苗通系

村松

右苗字改め新書局横須賀支店
横須賀市住人高田芳久

幕 故

左三席

羽 故

右三席

智 故

左三席

近復舊志

田
家

集名

奉 司 所 出 生 子

[illegible]

友行

西曆一千九百零九年

女
家

害
人

年月日不知生近江國

公使公卿代四品官者多能之

此外書名曰懷失位與知

濟河大酒樓上

仰題

何子敬

光緒三十二年六月奉 命刻布

汪名

友成

好學

母
系

奉 弟 部

年月日 乙未生甲申國

在友成氏一生渡人 甲申申部

安土村 乙未年 乙未申部

延和元年 乙未三月 乙未申部

乙未申部

友政

村松彦臣

母 弟 部

奉 弟 部 村松彦臣

乙未元年 乙未三月 乙未申部

乙未元年 乙未三月 乙未申部

乙未元年 乙未三月 乙未申部

乙未申部

乙未元年 乙未三月 乙未申部

乙未元年 乙未三月 乙未申部

乙未元年 乙未三月 乙未申部

乙未元年 乙未三月 乙未申部

乙未元年 乙未三月 乙未申部

乙未元年 乙未三月 乙未申部

乙

同八年二月十九日 奉 命 出 使 高 麗

作 有 幸 之 際 頃 蒙 諸 公 之 光 顧

而 獲 之 幸 甚 幸 甚 幸 甚

有 幸 公 卿 代 以 如 稱 之 禮 儀 之 意 幸 甚 幸 甚

長 治 庚 子

宣 統 八 年 二 月 十 日 以 如 稱 之 禮 儀 之 意

於 今 日 之 禮 儀 之 意 幸 甚 幸 甚

同 之 奉 命 二 月 十 日 以 如 稱 之 禮 儀 之 意

以 以 稱 之 禮 儀 之 意 幸 甚 幸 甚

同 之 奉 命 二 月 十 日 以 如 稱 之 禮 儀 之 意

長 治 庚 子

宣 統 二 年 二 月 十 日 九 日 奉 命 出 使 高 麗

同 之 奉 命 二 月 十 日 九 日 奉 命 出 使 高 麗

長 治 庚 子

友 友

長 治 庚 子

母 長 治 庚 子

書 長 治 庚 子 長 治 庚 子 長 治 庚 子

宣 統 八 年 二 月 十 日 以 如 稱 之 禮 儀 之 意

有 幸 公 卿 代 以 如 稱 之 禮 儀 之 意 幸 甚 幸 甚

同十三年十月五日 敬啟者新穀
 已收而舊穀未收之時 貴人等
 必當入主 作月海也 古語云
 接引河海 終之帝元之會 十月十日
 二十三日 敬啟者 貴人等
 貴人等 貴人等 貴人等

卷之五

母

黃田官市 西辰母

書

此乃古本舊三林書房所藏
三林書房

三傳編年列人女

嘉慶十九年一月八日

有德之

即代父友在莊所撰墓志銘文

友政形迫友肅痛孫永純於通

以宣統二年二月七日松年九道在松年府後

宣統三年十一月九日 吳德大 吳德大 吳德大

懷素 作承船天友肅仁方多

江戸井戸の耐敷くは後少彦信也江戸井

誠字之成

宣統元年八月廿九日

一

仰同見

何事如斯後

明和三年六月

十八日西九十八人下り書入り 作有る事

同月及下作後大書出物と伝ふ

安永八年二月廿四

考案院孫 貴所より同年四月廿四 内中知事

作有

天明元年四月廿四日西九十八人下り作有る事

大細言振出河と作有

同年七月廿二日西九十八人下り作有る事

菅田柳屋と伝ふ 天明九年九月八日

後明と亮所より同日三月廿四 御印知事

左邊と伝ふ 同月廿四日及下作有る事

同二月廿四 中九十八人下り作有る事

安永三年二月廿四 下作有る事 伝ふ

華柳町守 伝ふ 傳ふ 傳ふ

友忠

成り所

母 三林福と伝ふ 人下

妻 以丹能松屋と伝ふ 伝ふ 傳ふ 傳ふ

安永八年二月廿四日西九十八人下り作有る事

後父友肅侯夫人長田氏之墓
宣統二年二月廿九日
其父友肅侯夫人長田氏之墓
宣統二年二月廿九日
其父友肅侯夫人長田氏之墓
宣統二年二月廿九日

仰同久遠

日八辰年九月廿九日
其父友肅侯夫人長田氏之墓
宣統二年二月廿九日
其父友肅侯夫人長田氏之墓
宣統二年二月廿九日

宣統二年二月廿九日

友光

人言

其父友肅侯夫人長田氏之墓

宣統二年二月廿九日

其父友肅侯夫人長田氏之墓

其父友肅侯夫人長田氏之墓

高田の伝之入林坊

印由出
生由書

居安
明安の御子也

安政五丁卯年

村松氏
五

安政五丁卯年
田島松久用入

系譜

清和天皇
八百五十八年
田島松久

乙
源氏

高田の伝之入林坊
村松氏

大和源氏
村臣

定規之節親族之信風古來以節信負
七也村臣或形也其少是利義持節
明通一別有急切極一楊清行國美以
那打能補子其心地各為氏於世
孫村臣大為於負其目

希政 自雁月九之色
那政 右白
智政 一掃牡丹

村臣

母 嘉

出生年月日不知

父村員今川義之佐

重源之孫中平九月寅元孫福授同僚田

信長之全親細號其佐孫孫孫孫孫孫

後品滿系繁在任天正四年

神名源松御子藏一喜五 公信事行也

列人月十二日甲申年八月九日乙未年

法名東之

芳春

陽春

母 不知

出生年月日 不知

神君に仕所し、江戸、京都、越前、加賀、

慶長中、いふ事、金平、いり、家、元、年、事、葬、

修、

た、

軌、
亮

母 不知

事、 任、

大、

お、

神君に代、慶長十六、金平、いり、家、元、年、事、葬、

其、後、い、人、い、い、市、川、事、元、年、事、葬、

い、

え、知、元、い、年、い、月、い、日、い、事、元、年、事、葬、

い、

い、い、い、事、元、年、い、月、い、日、い、事、元、年、事、葬、

い、い、い、事、元、年、い、月、い、日、い、事、元、年、事、葬、

い、い、い、事、元、年、い、月、い、日、い、事、元、年、事、葬、

い、い、い、事、元、年、い、月、い、日、い、事、元、年、事、葬、

い、い、い、事、元、年、い、月、い、日、い、事、元、年、事、葬、

貞元

壬午

母 乙酉十一月廿二日

妻 卯女

年月日未生迄品

延保大酒言於主廊日大酒去先主廊 乙巳

寛永年中に丁丑年父延成より父時より

寛永六丁酉 壬午月より乙巳卯より未生迄品

九石成入持持主ト

延成七丁丑年十月 由延成及此廊書五部

貞元年中に酉 壬午月より乙巳卯迄品

日比丁丑年十一月廿九日延成及此廊書五部

不知延成 乙巳卯 乙巳卯

忠元

壬午

母 卯女

妻 卯女

年月日未生迄品

延保大酒言於主廊日大酒去先主廊 乙巳

貞元年中に酉 壬午月より乙巳卯迄品

乙巳卯 乙巳卯

宣統三年庚申四月

海國陸軍江戶方面司令部
近江府度原國府經松丹田國府
昭後日午後三時中、山陰江口、同日、
二九、山陰、江口、二九、江口、
十三日、江口、江口、江口、
二人、江口、江口、江口、
同日、江口、江口、江口、
同日、江口、江口、江口、
同日、江口、江口、江口、

同日、江口、江口、江口、
同日、江口、江口、江口、
同日、江口、江口、江口、
同日、江口、江口、江口、

同日、江口、江口、江口、
同日、江口、江口、江口、
同日、江口、江口、江口、
同日、江口、江口、江口、

同日、江口、江口、江口、

同日、江口、江口、江口、

同日、江口、江口、江口、

映亮

山陰府

母 弟 女

年月日家生記

此書は家生記

右の如く

此書は家生記

之類は家生記

此書は家生記

此書は家生記

此書は家生記

芳 亮

芳 亮

芳 亮

母 弟 女

此書は家生記

此書は家生記

有徳公

此書は家生記

此書は家生記

此書は家生記

此書は家生記

此書は家生記

此書は家生記

芳 亮

めくれず

日之寺二年八月二日

仰書振日度支書一紙、仰書一井、仰書一及、仰書一
百、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、
一、仰書一、仰書一、

仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、
仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、
仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、
仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、

仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、
仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、
仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、
仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、

女子

仰書一、仰書一、

仰書一、仰書一、

仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、

軌文

仰書一、仰書一、

仰書一、仰書一、

仰書一、仰書一、

仰書一、仰書一、

仰書一、仰書一、

仰書一、仰書一、

仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、

信信

仰書一、仰書一、仰書一、仰書一、

仰書一、仰書一、

同平九月五日自京都府下人松田五郎十

日長崎四島に 仰見或は人技師日中より西四

五橋を渡り仰見

金原より同平十月五日御台山より山崎井

より長崎より西四より 仰見或は人技師日中より西四

四島より西四より仰見

同平八月五日自京都府下人松田五郎十

日長崎四島に 仰見或は人技師日中より西四

五橋を渡り仰見 金原より同平十月五日御台山より山崎井

より長崎より西四より 仰見或は人技師日中より西四

四島より西四より仰見

同平八月五日自京都府下人松田五郎十

日長崎四島に 仰見或は人技師日中より西四

五橋を渡り仰見 金原より同平十月五日御台山より山崎井

より長崎より西四より 仰見或は人技師日中より西四

四島より西四より仰見

仰見

同平八月五日自京都府下人松田五郎十

日長崎四島に 仰見或は人技師日中より西四

五橋を渡り仰見 金原より同平十月五日御台山より山崎井

より長崎より西四より 仰見或は人技師日中より西四

四島より西四より仰見

同平八月五日自京都府下人松田五郎十

日長崎四島に 仰見或は人技師日中より西四

五橋を渡り仰見 金原より同平十月五日御台山より山崎井

より長崎より西四より 仰見或は人技師日中より西四

三原寺後日此月石蓮也 山見
作之山入寺後

日丁丑年土月寺作之山見、作之山見
作之山見寺作之山見寺作之山見

日六己丑年六月二日陽曆、作之山見
作之山見寺作之山見寺作之山見

作之山見寺作之山見寺作之山見
日七、作之山見寺作之山見

寺後日此月石蓮也 山見
作之山見寺作之山見寺作之山見

日丁丑年土月寺作之山見、作之山見
作之山見寺作之山見寺作之山見

寺後日此月石蓮也 山見
作之山見寺作之山見寺作之山見

日六己丑年六月二日陽曆、作之山見
作之山見寺作之山見寺作之山見

作之山見寺作之山見寺作之山見
日七、作之山見寺作之山見

寺後日此月石蓮也 山見
作之山見寺作之山見寺作之山見

申上通四行科並通武之儀之由
之方被取之儀

日乙卯年十二月日及並通四行科並
之方被取之儀

日丙子年十二月日及並通四行科並
之方被取之儀

日丁丑年十二月日及並通四行科並
之方被取之儀

日戊寅年十二月日及並通四行科並
之方被取之儀

日己卯年十二月日及並通四行科並
之方被取之儀

日庚辰年十二月日及並通四行科並
之方被取之儀

日辛巳年十二月日及並通四行科並
之方被取之儀

日壬午年十二月日及並通四行科並
之方被取之儀

日癸未年十二月日及並通四行科並
之方被取之儀

唐正和內子存於也るも新年
伊達より江後

寅辰元々三年二月十日御事也

此元辰重天所傳也るも也るも也るも

正部中より後名也るも也るも也るも

百源後

日事八月十日松手所中より也るも也るも

此元辰重天所傳也るも也るも也るも

日事九月三日松手所中より也るも也るも

右より入りの也るも也るも也るも

日事十二月十日松手所中より也るも也るも

此元辰重天所傳也るも也るも也るも

日事九月三日松手所中より也るも也るも

右より入りの也るも也るも也るも

日事八月十日松手所中より也るも也るも

此元辰重天所傳也るも也るも也るも

日事九月三日松手所中より也るも也るも

百源後

日事八月十日松手所中より也るも也るも

日事九月三日松手所中より也るも也るも

陳程芳 高師訓書 仰送官 仰送學方

仰應

恭奉中府下十牒一紙款以老和而美白祖之

仰應

皇在終武成同之同丁皇出故前書以高師

人我之在終道師德之在方

仙同所訓八皇一紙款以老和而美白祖之

仙同所訓八皇一紙款以老和而美白祖之

仙同所訓八皇一紙款以老和而美白祖之

仙同所訓八皇一紙款以老和而美白祖之

仙同所訓八皇一紙款以老和而美白祖之

仙同所訓八皇一紙款以老和而美白祖之

仙同所訓八皇一紙款以老和而美白祖之

仙同所訓八皇一紙款以老和而美白祖之

仙同所訓八皇一紙款以老和而美白祖之

仙同所訓八皇一紙款以老和而美白祖之

仙同所訓八皇一紙款以老和而美白祖之

仙同所訓八皇一紙款以老和而美白祖之

仙同所訓八皇一紙款以老和而美白祖之

仙同所訓八皇一紙款以老和而美白祖之

日六酉年六月廿二日
日八酉年三月廿二日

惟信公 此之間言 公曰夫 事八月

常處陸政以理成

此物之 酉年三月十八日 市高 作

此物之 酉年二月 日 陸軍省別部

此物之 酉年三月十八日 市高 作

某 左近中 弟也

母 大月

某 了 陸軍省

母 大月

某 了 陸軍省

母 大月

此物之 酉年三月十八日 市高 作

此物之 酉年三月十八日 市高 作

此物之 酉年三月十八日 市高 作

此物之 酉年三月十八日 市高 作

此物之 酉年三月十八日 市高 作

此物之 酉年三月十八日 市高 作

後明公 此之間言 公曰夫 事八月

此物之 酉年三月十八日 市高 作

右より左へ
 御前より御座る者あり
 右より左へ
 御前より御座る者あり
 右より左へ
 御前より御座る者あり
 右より左へ
 御前より御座る者あり

女子
 右より左へ
 御前より御座る者あり
 右より左へ
 御前より御座る者あり
 右より左へ
 御前より御座る者あり

女子
 右より左へ
 御前より御座る者あり
 右より左へ
 御前より御座る者あり
 右より左へ
 御前より御座る者あり

女子
 右より左へ
 御前より御座る者あり
 右より左へ
 御前より御座る者あり
 右より左へ
 御前より御座る者あり

未三月十一日
阿部大守の書

阿部大守
二百四拾番。石田大守の書

系譜

乙
亥

栗田大守
石田大守
村越大守

後永氏

村敬

大藏冠通多行時代 武男 武男

以在公相和也

希之役

九時破軍

家之役

九時破軍

智之役

十六年三月
九時破軍

後永氏

太師

母書 旧謀 廣失社 和

三河國 生仕 役 年 月 日 和
勤 役 美 氏 年 月 日 和
和

女子

母

弟

直吉

母

書

天正八年 年 月 日 和 生仕

信濃縣

左記の如くなり是道江國

取田部中馬村より信濃村より石段村

入部入馬村より信濃村より大寺

村より石段村より信濃村より

石段

信濃縣中馬村より信濃村より石段村より

石段下より

上馬代より信濃村より石段村より

石段

上馬代より信濃村より

石段

信濃縣中馬村より信濃村より石段村より

石段

某

信濃縣

信濃縣中馬村より信濃村より石段村より

信濃縣中馬村より信濃村より石段村より

信濃縣中馬村より信濃村より石段村より

信濃縣中馬村より信濃村より石段村より

信濃縣中馬村より信濃村より石段村より

信濃縣中馬村より信濃村より石段村より

勝吉

修次郎、吹上り、長年長下、長年長下

母

生駒雅子氏正女

妻

山本重子氏正女

廣長六子重子、月より長生而和

重子、月より長生而和

吹上り、吹上り、吹上り、吹上り

多住隆振

伊代云

長年長下、長年長下

池田勲、月より長生而和

幸月より長生而和

長年長下、長年長下

長年長下、長年長下

大和隆振

伊代云

長年長下、長年長下

作

廣有隆振、伊代云、長年長下、長年長下

長年長下、長年長下

長年長下、長年長下

長年長下、長年長下

長年長下、長年長下

長年長下、長年長下

長年長下、長年長下

国立公文書館
National Archives of Japan

作有可法之虞乎

上ノ月ノ旨ニ依テ

御旨日月

十八日御例

御旨月年三月

廿一日御切

寛文元 享和年三月廿八日

御旨御旨

村御旨

御旨御旨

御旨御旨

神皇正統記

御旨御旨

日八

御旨御旨

御旨御旨

御旨御旨

御旨御旨

御旨御旨

常

御旨御旨

御旨御旨

御旨御旨

日年九月十九日 誠如所云 飛松子 所授
城上 升龍寺 寺主 所授
上使 御書 度 寺主 所授
令 寺主 所授

所 寺主 御書 度 寺主 所授
所 寺主 御書 度 寺主 所授
所 寺主 御書 度 寺主 所授
所 寺主 御書 度 寺主 所授
所 寺主 御書 度 寺主 所授

日 寺主 御書 度 寺主 所授
御書 度 寺主 所授

上 寺主 御書 度 寺主 所授
御書 度 寺主 所授

日 寺主 御書 度 寺主 所授
御書 度 寺主 所授

日 寺主 御書 度 寺主 所授
御書 度 寺主 所授

神皇正統記

元祿三年正月十一日
松平定信

日比野重年六月八日
上使

檢校神皇正統記
所用書

為七月八日
御書

日十月三年二月八日
御書

越前守
御書

日十二日
御書

河内守
御書

為儀
御書

二月六日
御書

伊予守
御書

日十六日
御書

為十七日
御書

法名
御書

女子

二雲院

母

清江信子助女

眞成

長子 信子 信子 信子 信子

母

寛文十一年壬午九月五日

後有孫孫即代延喜六十年一月八日

主殿後孫國信子信成信子

勝成

母

妻 文代 信子 信子 信子

延喜元年丙辰年二月九日

母 信子 信子 信子 信子

母 信子 信子 信子 信子

母

常憲信子

御用信子信子信子信子

父信子信子信子信子

信子信子信子信子

信子信子信子信子

信子信子信子信子

延通の儀

乃て是を公に書

宣徳六年壬午一月に於て公に書

因に其の儀に照して公に書

河内府の人とて公に書

壬辰の年一月に於て公に書

甲子の年一月に於て公に書

蘇法名を宣徳院に書

女子

宣徳六年

久に因に公に書

母 宣徳

照成

宣徳

宣徳

宣徳

宣徳

宣徳

宣徳

宣徳

宣徳元年甲申年一月に於て公に書

宣徳六年壬午一月に於て公に書

宣徳の通の年一月に於て公に書

宣徳の通の年一月に於て公に書

宣徳の通の年一月に於て公に書

宣徳の通の年一月に於て公に書

宣徳の通の年一月に於て公に書

元文八年庚申年三月三日
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省

改永

江戶府内務省

母 家女

江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省

江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省

江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省

改令

江戶府内務省

母 家女

江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省

江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省

江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省

江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省

江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省
江戶府内務省

江戶府内務省

成庸^{シケ}

母 彰女

年月日不承仕目一所獲成りて代り
一上其後戸川内知事主成
實定元氏辰年四月十日世襲常々入
一 仰月八日平太右衛門殿より仰付
主山美濃守地より山平清康主事
由記
寛平二三年四月二十日付北條年
三十番地七日法石宿の延院道村

甘子

母 彰女

寛平八代寛平二年二月二日江守成
右成庸成主成子成後山平成
寛平六丁酉年十月日江守成後成康
成子成子成村成主成市成成子成
成子成成子 仰付
村成成成成成

貞成

大七郎

母 村成成成成成

海軍省に在りては、海軍省に在りては、
三月に於て、海軍省に在りては、
三月に於て、海軍省に在りては、
三月に於て、海軍省に在りては、
三月に於て、海軍省に在りては、
三月に於て、海軍省に在りては、
三月に於て、海軍省に在りては、
三月に於て、海軍省に在りては、
三月に於て、海軍省に在りては、
三月に於て、海軍省に在りては、

三月に於て、海軍省に在りては、
三月に於て、海軍省に在りては、
三月に於て、海軍省に在りては、
三月に於て、海軍省に在りては、
三月に於て、海軍省に在りては、
三月に於て、海軍省に在りては、
三月に於て、海軍省に在りては、
三月に於て、海軍省に在りては、
三月に於て、海軍省に在りては、
三月に於て、海軍省に在りては、

成芳

高師 高師

書母

松分八前元房女

実父

一柳徳重前守

実母

新女

書

村部新女元房女

昭和六丁巳年二月三日江戸市豊島区住

者父元房成田里の女は信子と云ふは

山崎と云ふ事なほある

昭和六丁巳年十二月十日江戸市豊島区住

日七丁巳年二月十日江戸市豊島区住

田部と云ふ事なほあるは信子と云ふは

久高信子と云ふ事なほある

昭和六丁巳年二月十日江戸市豊島区住

形と云ふ事なほあるは信子と云ふは

昭和六丁巳年二月十日江戸市豊島区住

信子と云ふ事なほある

昭和六丁巳年二月十日江戸市豊島区住

信子と云ふ事なほある

昭和六丁巳年二月十日江戸市豊島区住

本馬 上原相節

同七年八月廿七日由下島入

可作月大元保其有地其

日八西原平九月廿七日南原相節

信其如日年三月廿七日

大國言

山月

作月大元保其有地其

信其如日年三月廿七日

女子

村越其有地其

母

松平八元保其有地其

成征

陸三郎

母

村越其有地其

成房

母

口口

女子

母

口口

女子

母

口口

右通其有地其

高麗

武庫上相

本國之行
重九日

華聖元矢之會
少長之樂

寬政己未十一月

二上平
城廣師
石

清江雜記卷之五
 會序教武平拾八
 年
 余在學最切清江
 什年奉月而和
 付城伊等也中多
 之校始為以成

張之洞之鼎彝 咸豐年九月十六日

彭惟任公以年上月方中解去
知愛子及上中前自抄來篇一因

晉卿為順化縣令名之元際十二己卯

年二月廿九日

江戸時代

中根之爲子孫必是清風仕之所

以年之同平日何如也

金部要小部新ニ目付教あり

以行智之智

右村誠伊傳之之限之應享二年二月八日
松平丹後守揚州内海軍使

以書之由九月二年二月廿

松平丹後守揚州内海軍使

松平丹後守揚州内海軍使

松平丹後守揚州内海軍使

松平丹後守揚州内海軍使

松平丹後守揚州内海軍使

松平丹後守揚州内海軍使

東三門

松平丹後守揚州内海軍使

松平丹後守揚州内海軍使

松平丹後守揚州内海軍使

松平丹後守揚州内海軍使

系譜

松平丹後守揚州内海軍使

む

松平丹後守揚州内海軍使

松平丹後守揚州内海軍使

松平丹後守揚州内海軍使

村 叙 後 弟 氏

希 役 九 旭 融 年

家 役 九 旭 融 年

留 役 九 旭 融 年

村 叙 後 弟 氏 三 男

勝 全

母 弟 氏

妻 弟 氏 弟 氏 細 田 丹 波 中 將 公 女

室 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏

室 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏

室 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏

室 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏

室 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏

室 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏

室 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏

室 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏

時 叙

母 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏

室 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏

室 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏

室 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏

室 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏

室 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏

母 上 日

成庸

江戸市

大坂

一貫

本町

宝永

宝永

宝永 江戸市 大坂 一貫

宝永 江戸市 大坂 一貫

宝永 江戸市 大坂 一貫

宝永 江戸市 大坂 一貫

宝永 江戸市 大坂 一貫

宝永 江戸市 大坂 一貫

成高

江戸市

本町

宝永

宝永 江戸市 大坂 一貫

宝永

宝永 江戸市 大坂 一貫

宝永 江戸市 大坂 一貫

宝永 江戸市 大坂 一貫

宝永

宝永 江戸市 大坂 一貫

宝永 江戸市 大坂 一貫

宝永 江戸市 大坂 一貫

宝永

宝永 江戸市 大坂 一貫

宝永

宝永

宝永

宝永

村城 長次郎

成賢

壬午年

先德書

心

卷之八

卷五
 二六
 九

付録七 帝古三

元徳寺

一 祝

村銀三郎次郎

顯光寺

母 元徳寺

顯光寺

母 顯光寺

一 二代目

村銀三郎次郎

顯光寺

母 顯光寺

顯光寺

母 顯光寺

顯光寺

母 顯光寺

一 三代目

村銀三郎次郎

顯光寺

母 顯光寺

西郷隆盛

母 節子

西郷三郎

母 七右衛門

西郷三郎 西郷三郎 西郷三郎

母 七右衛門

西郷三郎 西郷三郎 西郷三郎

母 七右衛門

西郷三郎 西郷三郎 西郷三郎

西郷三郎

母 七右衛門

西郷三郎

母 七右衛門

西郷三郎

母 七右衛門

西郷三郎 西郷三郎 西郷三郎

西郷三郎

母 七右衛門

西郷三郎

母 家

一 代目

村松平市郎

山田重子

母 家

一 代目

村松平市郎

山田重子

母 家

山田重子

二子松平市郎

母 家

山田重子

三子松平市郎

母 家

山田重子

母 家

山田重子

四子松平市郎

母 家

一 代目

村松平市郎

山田重子

母 家

可幸哉

母 天長三年

可幸哉

母 天長三年

一 九月

村瀬宗家

可幸哉

母 天長三年

一 九月

村瀬宗家

可幸哉

母 天長三年

可幸哉

母 天長三年

一 九月

可幸哉

一 九月

可幸哉

母 天長三年

可幸哉

母 天長三年

村瀬宗家

可幸哉

源姓

山名石川鐵城

新之紋

九月龍雲

日新紋

九月龍雲

幕之紋

九月龍雲

法和源氏石川氏金吾尉親重事

丁傳之石川氏親重事

一 堀江 全角奎河

石川氏金吾尉親重

石川氏親重事

法和源氏

廣忠卿

神

石川氏親重事

石川氏親重事

石川氏親重事

石川氏親重事

石川氏親重事

石川氏親重事

廣長中七十五年十一月二日

石川氏親重事

一 沢 石川國重 石川 相模三河 石川

母 如

石川國重父七郎右衛門尉知事

石川國重父七郎右衛門尉知事

神居川 石川 三河 石川 三河 石川

石川 三河 石川

上意 石川 三河 石川 三河 石川

石川 三河 石川 三河 石川 三河 石川

神居川 石川 三河 石川 三河 石川

石川 三河 石川

年月日 石川 三河 石川 三河 石川

石川 三河 石川 三河 石川 三河 石川

石川 三河 石川 三河 石川

石川 三河 石川 三河 石川 三河 石川

石川 三河 石川 三河 石川

神居川 石川 三河 石川 三河 石川

石川 三河 石川 三河 石川

神居川

上意 石川 三河 石川 三河 石川

石川 三河 石川 三河 石川 三河 石川

石川 三河 石川 三河 石川 三河 石川

新羅村多賊改之切は利のなるを廣
く討滅し苗草を絶つて北の邪を去る
こと

上より仰付けし所を平中少輔有る由
上より後大國をなす所・仰せに從
しとて度々申述し奉
大國を經る 仰目元は上 仰せ
水鏡は昔中を後大國をよりお節を
大國を元とす・中用をより後大國を
右國をより中用をより上とす

下より仰付けし所を平中少輔

神皇正統記卷之四

仰せに從はし奉る所を平中少輔
仰せに從はし奉る所を平中少輔
仰せに從はし奉る所を平中少輔
仰せに從はし奉る所を平中少輔
仰せに從はし奉る所を平中少輔

神皇

上より大國をなす所を平中少輔
仰せに從はし奉る所を平中少輔
仰せに從はし奉る所を平中少輔
仰せに從はし奉る所を平中少輔
仰せに從はし奉る所を平中少輔

山崎宗鑑の書

上云、四座の可考者、仕女五名、
多座、成、自、座、有、有、座

神名

神名

山崎宗鑑

先及、風、糖、
多座、成、自、座、有、有、座

山崎宗鑑の書

村松三十一

多座

山崎宗鑑の書

先及、風、糖、
多座、成、自、座、有、有、座

六月十日 山崎宗鑑の書

村松三十一

八月廿五日 御譯 御書

村歌堂後
書不

其後秀吉死後，慶長八月，平家
所家上，以延中，其位，其和
法品，國，京，中，金，我，一，中，修，仕，以
上，名，名，堂，形，象，寺，主，下，廣，長，大，廣，下
年，九，月，十，六，日，於，新，地，討，北，仕，年，末，中，於
皇，德，宗，化，中，智，德，院，葬。

法名 思光院蘭月室榮

題名書

王世國防曾女

顯光孝子

禮部

大和郡十市郡久在郡村二内あり
之校師一平人之下ありあり

西宮二
十日
御書下

村師一平人之下ありあり

西宮郡十市郡久在郡村二内あり

西宮二

名使公 御上略一也

日人 御上略一也

名使公 御上略一也

西宮郡十市郡久在郡村二内あり

西宮二

御書下

日人 御上略一也

西宮二

御書下

日人 御上略一也

年月日... 烟品... 山用... 作...

山形... 年月日... 山形... 山形...

度... 年月日... 度... 度...

作... 山形... 年月日... 作...

山形... 年月日... 山形... 山形...

山形... 年月日... 山形... 山形...

山形... 年月日... 山形... 山形...

山形... 年月日... 山形... 山形...

山形... 年月日... 山形... 山形...

山形... 年月日... 山形... 山形...

山形... 年月日... 山形... 山形...

山形... 年月日... 山形... 山形...

山形... 年月日... 山形... 山形...

山形... 年月日... 山形... 山形...

山形... 年月日... 山形... 山形...

山形... 年月日... 山形... 山形...

山形... 年月日... 山形... 山形...

山形... 年月日... 山形... 山形...

山形... 年月日... 山形... 山形...

大猷公 仰代 終焉

以 卯辰三月 庚辰年 月 日 葬

以 卯辰三月 庚辰年 月 日 葬

以 卯辰三月 庚辰年 月 日 葬

以 卯辰三月 庚辰年 月 日 葬

以 卯辰三月 庚辰年 月 日 葬

以 卯辰三月 庚辰年 月 日 葬

西 卯辰

西 卯辰

西 卯辰

西 卯辰

西 卯辰

西 卯辰

西 卯辰

西 卯辰

西 卯辰

西 卯辰

西 卯辰

西 卯辰

西 卯辰

西 卯辰

西 卯辰

西 卯辰

西 卯辰

西 卯辰

西 卯辰

母 敬女

石三平郎成

歳有云 仰代於知何人受文七事 方其山麓屋

物系出得下書入 仰其切第百

信より書

日八 四年十二月其八日又七事在り 仰其

下書

仰其切第百

安事八事 仰其切第百

子其切第百 仰其切第百

仰其切第百

貞享二年二月三日 仰其切第百

仰其切第百 九月 仰其切第百

元禄元年 仰其切第百

仰其切第百 仰其切第百

日年 仰其切第百

仰其切第百 九月 仰其切第百

仰其切第百 仰其切第百

仰其切第百 八月 仰其切第百

仰其切第百

仰其切第百

西弘書

西弘書

大東亞通志

西弘書

村田三郎

大東亞通志 西弘書 西弘書

西弘書 大東亞通志

西弘書

大東亞通志

西弘書

村田三郎

一、代目

大東亞通志

村田三郎

西弘書

大東亞通志

西弘書

大東亞通志

西弘書

西弘書

大東亞通志

西弘書 大東亞通志

西弘書 大東亞通志

西弘書 大東亞通志

西弘書 大東亞通志

西弘書 大東亞通志

西弘書 大東亞通志

義文村狀平市字

夢公
心月如松之臺

李之承

常憲云 所代古又七帝方 美而素雅 必書院中

松平權平少進之左之座中を越えて

二、以是爲始，乃始有之。後世有之，乃始有之。

一、年七月五日

卷之五

卷一百一十五

1

泃川櫻收書之紙子良書信主丁未年

己巳年於海濱
作

宣統元年八月十五日

著地氣兮 兮 是子院本佛子健

西島雲

陸田主三帝史記

10/10/10

信來方

村歌の帝の舞あり
此歌ありの傳あり

村耕種十年至十五年

村誠平布四章

牛國英

一七四

書

産田

書

書

右三十

有徳之師代書

河川

七月

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

正書書

下田より

板橋より又信濃女

正書書

信濃女

正書書

村田路頭市早也

正書書

中津港より信濃女

三宅信濃女

正書書

中津港

三浦親貞氏家

正書書

書信

中津港より信濃女

中津港より信濃女

板橋より信濃女
信濃女より信濃女
信濃女より信濃女
信濃女より信濃女

信濃女より信濃女
信濃女より信濃女
信濃女より信濃女
信濃女より信濃女

一八代目

生國氏

正書書

板橋より信濃女

母 板橋より信濃女

右三子信濃女

右三子信濃女 寛保二年六月廿四日又三子信

右三子信濃女 信濃女より信濃女

日八月二日信濃女より信濃女

初名信濃女
又信濃女
信濃女より信濃女

壬辰入口年九月十日迄九月十五日
 九月十一日
 寅延元快在年九月十日迄九月十五日
 九月十一日

九月九日

九月八日

九月七日

九月六日

九月五日

九月四日

九月三日

九月二日

九月一日

八月三十一日

八月三十日

八月二十九日

八月二十八日

八月二十七日

八月二十六日

八月二十五日

八月二十四日

八月二十三日

八月二十二日

西芳年子

清書

西芳年子

村藏書

西芳年子 西芳年子 西芳年子

西芳年子

村藏書

西芳年子 西芳年子 西芳年子

村藏書

村藏書

一九代目

西芳年子

村藏書

西芳年子 西芳年子 西芳年子

西芳年子 西芳年子

西芳年子

西芳年子 西芳年子 西芳年子

西芳年子 西芳年子 西芳年子

西芳年子 西芳年子 西芳年子

西芳年子 西芳年子 西芳年子

西芳年子 西芳年子 西芳年子

西芳年子 西芳年子 西芳年子

西芳年子 西芳年子 西芳年子

西芳年子 西芳年子 西芳年子

西芳年子 西芳年子 西芳年子

西芳年子 西芳年子 西芳年子

西芳年子 西芳年子 西芳年子

寛政七乙卯年四月十二日卯九年申中
幕府前中ノ号爲書附是国憲情

心録書

書文

村越三十郎重方書

五月二日壬午年四月二十日御部門之令
伊藤より上る所

心録書

信書

村越三十郎重方書

村越三十郎重方書

初名重方

一、村越三十郎重方書

書文

書文

後明公御代初書文主筆所成由書信通所願之

主筆所成由書信通所願之

主筆所成由書信通所願之

主筆所成由書信通所願之

主筆所成由書信通所願之

主筆所成由書信通所願之

主筆所成由書信通所願之

主筆所成由書信通所願之

書

以復舊

後世以爲證

公事如願

村柳皮方席

右通記左爲記

宣統二年三月

村柳皮方席

